

2022年1月17日

福島県知事 内堀雅雄 様
福島県教育長 鈴木淳一 様

福島県立高等学校教職員組合
執行委員会

県教委による強引な校名発表・統合に抗議します

福島県教委は、県議会の政調会で統合校名案を2月県議会に提案すると説明しました。統合校名の決定は事実上統合の決定となります。新聞によると、県教委は「それぞれの地域から一定の理解が得られた」と述べているようですが、私たちは、説明が尽くされることもなく、理解も納得も得られていないと認識しています。

南会津町で行われた住民説明会では「理解した」という声が全くなく、「県教委自身が作成した統廃合基準でも残せる学校である」という正当な声、「説明不足」、「納得いかない」の圧倒的な声に県教委は立ち往生し、さらなる説明会の継続を約束しました。そのような状況下で統合を進めることに納得できないとして、同窓会長が統合校名検討委員会に出席しないという異常な状態の下で、県教委はかん口令を敷きながら校名検討を進めてきました。統合にあたっては、県教委内部にも「通学には遠すぎる」との意見もあったようですし、県議会でも地元の声に理解を示す発言や、地元との協議

継続を求めるという請願の採択がありました。しかし実際には反対の声を無視して統合を進めてきたものです。

このような行為は、地域振興政策にも反します。また、通学できる地域に高校を存続させようとする地域住民の様々な提案と努力を無に帰し、県教委が目指すとする地域協働を本気で推進する学校にするきっかけを失うものです。

県教委の手法は、何が何でも小規模校を廃止するという意図の表れであり、地域の声、民主的手続きを無視する教育行政がまかり通るのを、福島県の教職員組合として看過できません。教育の機会均等、地方自治にかかわる問題です。このような県教委のやり方に断固抗議します。

併せて県知事が、小規模校の今日的教育的意義、多くの中山間地域を抱える福島県で高校を存続させて地域を守ろうとする地元の声を大切にして、地域振興や教育の機会均等に反する統合にストップをかけることを要望します。